

1月学習会のご案内

平成26年1月16日

みなさまがた、新年あけましておめでとうございます。あつという間の1年が過ぎ去り、めでたく平成26年がスタートしました。今年はいったいどんな年になるのでしょうか。

個人的な話になりますが、平成26年といえば、私、厄年にあたるそうです。とはいえ今のところ特に厄除けといった類のものは何もしていません。あまりそうしたことに今まで関心がなかったので家族もあきらめているのか何もいいません。正直に言えば、何か困ったことが起こるのではないかと不安な気持ちもあるにはあるのですが、生来の無精な性格ゆえに、このままこっそりと何もないことを祈っておこうと思っていたところ、新学期の子どもの日記に興味深い話題がのっていました。それは「厄除けラーメン」です。1年生の日記なので詳細は全く不明ですが、子どものお父さんが初詣の帰りにその「厄除けラーメン」を食べて厄払いをしたとのこと。もうこれしかありません。1200円までなら、たとえいわしの頭がのっけいようとも、食べて済まそうと今は思っています。とはいってもどこで食べられるのか不明なのですが。

さて、本題ですが、1月の語る会は磯野先生に読書指導について発表していただきます。日本国語教育学会の冊子で発表された内容です。磯野先生の専門分野について興味深いお話が聞けるものと楽しみにしています。

なぞ、引き続き駐車場及び会場が東山ランチへ変更となっています。お間違いのないようにお越し下さればと思います。本年もよろしくお祈りします。

日時	平成26年1月25日(土) 9:30~12:00
場所	岡山大学教育学部附属小学校 教師教育開発センター東山ランチ2F中会議室 ※場所がいつもと違います。駐車場の敷地にある建物です。 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小出 真規(こいで まさき) TEL 090-5704-7339 m-koide@okayama-u.ac.jp(学校パソコン)
内容	読者としての反応を生かした読書指導のあり方
発表者	磯野千恵先生(岡山市立西小学校教頭)

<お知らせ>

※「おもしろ見つけ」の本を、附属小でお取り扱いしております！来られ前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。(特価！)多くの方に手にとっていただけるように、みなさん！宣伝活動がんばりましょう！

※ 駐車場について

今後10ヶ月程度、附属小学校では、体育館の建設が行われます。それにともない、駐車場が「教師教育開発センター 東山ランチ」になります。「実践センター」という呼び方がかつてしていたところで、学校の南西にある建物です。よろしくお祈りします。わかりにくいようでしたら、当日朝、小出の携帯にご連絡いただければと思います。



12月の学習会の報告

(文責 近藤昌子)

12月の語る会は、「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書1年)の丸ごと読みの可能性について話し合いました。

田中先生より

○流行語大賞4つ。おもしろい時代。

○大学院の授業の一環の授業参観について。

小野先生の6年生「意見文を読み合う」授業、難波先生の4年生「冬の満月」の詩の授業の参観。

詩自体はやさしい言葉だが、作者は65歳。それくらいにならないと分からない世界。小学校4年生が深く理解するには難しいが、子どもは子どもなりに直観で相当読めていた。

三省堂の教科書にもあるが、4年生に入れるには難しい。実感を持った学びをするには教材研究も大切。

○中学生への校長講話

国語教育の研究の話。「中学生における合意形成のための話し合い能力の育成」。なぜするのかを問い直している。

意見の違う人が集まって合意にたどり着くには、民主主義社会を作る中で欠かせない能力。義務教育の段階で養うべき能力と信じて研究している。

→(3年生に向け、)しかし、本当に必要な能力なのか？

大切だと考えているのは確かだが、全員に身に付けてもらわなければ困るとは思っていない。そういう能力を持った人が数%でも育っていけばよい。そういう能力を使って話し合いが進むとき、協力できる人はもう少し多くいてもらわないと困る。話し合いがうまくいったときに「よかった」と感じてもらえる人はもっと多数、大半いてもらわないと困る。

違う方向では、理屈では分かるが賛成できないという人も大切な存在ではないか。ただ話し合い自体を否定したりなぜそうなるかと聞こうともしない存在とは同じ社会で生きていきたくない。

自分のやっている国語教育の方向は、一緒に生きて社会を作っていこうとする人たちを育てようとしている。そういう社会を作っていこうとすると、これから長い時間濃密な関係で社会を作っていく仲間である、あなたと周りの仲間たちは今の状況でよいのかどうか見直してほしい。

→生徒会長のコメント「人権教育と受けとめた。様々な状況の人々が認め合って生きていかなければならないという話だと思う。」受けとめられる者がいることを感じた。

小川先生より

○高校の先生の話の聞いたり論文を読んだりする機会。

→一宮高校の校長先生のキーワード「グローバル人材の育成」「イノベーションの創出」

中島プロペラのプロペラのCM作り。経済学部と工学部の学生が同じテーマでイノベーション。

プロジェクトを成功させるには様々な発想の者が寄り添いながら、新しい知識を創出していく。

→小学校では基礎作りになる教育をしているか？

生きる力から国語教育を考え直す必要。対話する力、異なりを認める力、瞬時に反応する力がこれから必要となるのではないか。

○野崎賞の選考会での農業高校のレポート

野菜を作る→企業化する→売る

そのストーリーの中で高校生を育てる。その状況で中・小でどんな子どもを作るか見据えていかなければならない。

○「天気を予想する」御野小学校5年

1次：何を伝えようとしている→題と問いを見つける。○○について書いている。それを確かめよう。

2次：子どもの反応→「分かった反応」的中率が高くなった理由が分かったところにハートマーク。

「つなぎ反応」例えば「国際的な協力の実現です」のキーワードを支える言葉をつなぐ反応。

子どもはキーワードを構造的につなぎながら読む。

的中率が高くなった理由を分けて読んだ。→前の場面とつないで読む。科学技術の進歩だけ

ではだめで…「もう一つ」とあるからなどをつなぐ。

グラフは必要かどうか→ワークシートの真ん中に図を入れる。図がない部分は四角だけを作っておくと、文章のことを図で書いてきた。ワークシートを工夫すると図に反応して読めるようになる。

3次：おすすめの図はどれか？グラフは重要というのは当然だが、アメダスと最後の筆者の写真を選んだ。前者は読みたくなる図の提示の順番があることと、後者は人間が感じる写真ということを通じてきた。非連続型のテキストを子どもに気付かせて読む奥深さがある。

田中先生より

○天気を予想する

気象庁の情報 分析結果をホームページにアップしているのを見ると恣意的に作られた表
→信頼性を評価しなくてもよいか？

小学校の教育ではしっかりと理解して受けとめることを中心。
高学年に入れば、批判的に見るのも必要かもしれない。

小川先生より

○話し合いの方向

- ・1次で増井さんは自分たちに何を伝えようとしているの？と尋ねられたとき、1年生（1年生にこだわらないとしても）はどんな直観を持つのか？
- ・何を根拠にして直観するのか？
- ・直観を持った子どもは2次で検証していくときにこのお話全体をどういう課題で追求していくのか？1時、2時、3時の課題の順番は？
- ・3次ではどんな学習が考えられるか？丸ごと読みの手法でどう考えられるか。

話し合いの結果

グループ1

○1次

- ・ライオンとしまうまには違いがある。→様子の違いを確かめよう。
- ・大きさなど書き出すだけでなく、二つのどうぶつの子ちゃんをつないでとらえさせる。
- ・耳をとじさせるなど動作化して実感を持たせた上で、比べてつないだことを言わせたい。

○ワークシート

- ・絵から線を引いて書き出すようなワークシートを用意したい。
- ・生まれたときの様子を表す文をみんなで確認して、囲むなどして部分ごとに分かるようにできるワークシートの工夫が必要。

グループ2

○1次

- ・赤ちゃんのかわいさ、すごさを読む。おかあさんと赤ちゃんとのイメージのギャップがおもしろい。→違いの面白さ。
- ・教材解釈としては、助詞に注目すると「が」の使い方で強調、自然の工夫のすばらしさ、それぞれにぴったりの育ち方等について共有。

○ワークシート

- ・絵からでも読める。ライオンの様子と成長を比べ、しまうまとも比べる工夫ができそう。
- ・言葉に着目させると、弱いところ強いところに丸をつけることでどちらの赤ちゃんも強くなるのがとらえられる。

グループ3

○増井さんの伝えたいこと

- ・生きていくための力がそれぞれあること。動物それぞれの暮らし方にあった育ち方。ライオンとしまうまの赤ちゃんの違い。
- ・ライオンとしまうまは比べられるが、暮らし方まで二つを比べることで1年生が気付くだろうか。自分とも比べるのでは。

○授業構想

- ・様子や大きくなっているところを比べよう。
- ・「自分で」というキーワードとかおかあさんとの関係もでてくるため「すばらしさ」という感性的なめあてでも可能か。
- ・おかあさんとの関係を比べる視点も含めて考えさせる。
- ・「のです」を追うと、大切なところが分かる。

田中先生

○丸ごと読みの可能性

冒頭の部分の題名の把握，問題提起の把握から検証に入る。

全体から直観ができれば，1年生の読みとしては一定の到達ができていると言ってよい。

問いの課題を二つの事例を比べながら検証するのか，それぞれの動物で確かめるのを踏まえて最後に比べるのか，どちらでも可能と思っている。

1年生の説明文としては，これまでと比べて文章量が増えている。最後のカンガルーまで入れると，ワーキングスペースがかなり必要。学習者の状況もあるが，全体を頭に入れるのはハードルが高い。

小川先生

○おもしろ見つけ

100回記念。

「違いを考えて読もう」となっているが，現場では違いは考えない。それぞれの様子，育ち方を読むだけで，違いまで考えさせない。→違いを前面に出して単元を組めないか？

生活科での自分の成長をアルバムにとじていることから，人間の成長と比べてライオンの赤ちゃんの成長を比べる。ライオンが終わったところでしまうまは人間，ライオンと比べる，という授業構想。比べることで大きさの意味が分かる。単元名は非常に大事。比べることで分かる。

○丸ごと読みとして

題名と問いの文　そこでこの話のほとんどが語られる。増井さんの疑問に持ったストーリーを追う必要がある。どのようにして不思議に思ったのかを導入で底上げする。自動車比べの学習を活かして問いの文から直観と結びつく。

○「主語を大事にする」

ライオンでは繰り返し同じ主語が出てくる。1年生はそれぐらい繰り返して書いていないと分からない。しまうまでは，ときどき主語がぬける。子どもは文の頭がぬけているが何の何かを認識していく。(1学期からの積み重ね)文のまとまりはどの部分かが重要。さびわけする力をつける事も大切。様子はこれとこれを比べればよい，といえる子どもにしておく。

手引きでは，しまうまの赤ちゃんの様子を書き出して表組みする。重要な手法だが，書き出して終わる。書き出して比べたときに子どもの気付きが生まれる。「もうやぎ」の「もう」の驚きの意味がはっきりする。

○交流の意味

様子が分かるころは分かった反応。その中で、「子猫ぐらい」と「もうやぎぐらい」をつなぐ。つないだ子どもは、しまうまの赤ちゃんの方がとつても大きい。これが気付き反応になる。

大きさ、目や耳、といった視点を出すことで比べやすくなる。子どもによっては、大きさは比べられても目や耳とは比べられない子どもがいる。自分の読みをつくる過程を振り返ったときに、自分は一つ反応したけれど、今日は3つ反応するところがあったことに気付いてくる。すると、反応を増やそうとしてくる。先生が一つ一つ質問すると、子ども自身でアプローチする力がつかない。反応する力を確かにしたり増やしたりする。

○最後の十分

「耳はとじたまま」は1年生にとって分からない。動作化をしてみると、本当の違いが読める。子どもの読みの力でどこに持ってくるか。

○カンガルーの赤ちゃん

しまうままでなら丸ごと読みはできそう。カンガルーは3次という発想でよいのではないか。

田中先生

○「くらべる」教材

基本3事例を取り上げている教材がほとんど。どうぶつの赤ちゃんは3事例だったり2事例だったり。

子どもの対象認識が「比べる」事を使う。

大人は単独で見ても分かるということは、既に認識を持っているから目の前になくても比べられる。

詩にある子どもの「見立て」はすばらしいと言われるが、そもそも何かと比べないと認識できない。比べることが難しいのではなく、比べないと認識できない。

○教材分析

生まれた様子、成長の過程は比べやすい。

「自分で」という表現が3事例につき2箇所ずつ出てくる。手がかりとして比べられる。

接続詞が少ない。1事例ごと1箇所ずつ。ライオンは最初の方。あとは「のです」の文の始めに出てくる。強調されている。接続詞への着目も考えられる。

「のです」は相当に大事な部分として示されているから1箇所しか使っていない。

○丸ごと読み

絵本だったら、ページは、タイトル・問いは見開き。文章量からして「のです」までが一つ。問いのどのような様子までが挿し絵を入れて見開き。その後成長の様子・・・丸ごと読みの形で提示されてそこから拾い出すのは難しい。増井さんが伝えようとしていることを、時間をとってとらえる必要がある。既有知識を意識化させる作業をしておく→丸ごと読んでいく重要なステップ。

小川先生

○丸ごと読みとおもしろ見つけをどうミックスさせるか

様子確かめる、成長確かめる→アプローチはせまい。主題や要旨をストレートにとらえる。

作品世界で遊ぶ(かわいい、すばらしい)→低学年での様々な反応。

両方で1年間の単元を構想すると、子どもは豊かな経験を積むことができる。

田中先生

追求する課題がはっきりととらえられていれば、全文から探してこようが、二つの部分で探してそれぞれを比べようが、発想は丸ごと読み。